

# 1. 調査報告概要表

作成日 2009年2月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570105112
法人名	社会福祉法人 正瑛会
事業所名	グループホーム 翠風園
所在地 (電話番号)	新潟県 新潟市 南区 高井東 2丁目13番33号 (電話) 025-362-7605
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	2009/1/14

## 【情報提供票より】(2008年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	16.0 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2008年12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.1 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中澤内科医院・久保歯科医院・白根健生病院・白根緑が丘病院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がる旧白根市の国道8号線沿いにあるデイサービスセンターとヘルパーステーションを併設したグループホームです。複合施設のメリットを活かしつつも、和風の独立した建物になっており、落ち着いた生活の場としてのたたまいいなっています。開設時から一貫して、国際連合の世界保健機関でも提唱されているスピリチュアル・ケア(魂のケア)が実践されており、肉体的なケアだけではなく、よりよく生きるための魂のケアの精神が職員にも浸透し、現場で活かされています。間もなく開所から4年となり、事業所の運営も安定的で安心感があります。また、職員間の連携が非常によく、何か問題や課題があれば、話し合いの上、改善する風土が培われており、今後もさらにサービスの質の向上に取り組みが進められていくことが期待できます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に対しては、「できるところから順々に」と着実に改善の取組みが行われています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価に関しても、各ユニットで分担を割り振り、職員が意見を出し合って自己評価が行われました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議にて事業所の日々の取組みや報告が行われていますが、欠席者が多く開催できないことや、報告が中心となり、意見や要望があまりない場合があるなどの会議運営上の課題があります。予め参加者に会議で意見をもらいたい議題を伝え、参加の意義を明確にするなどの工夫を行い、会議がより有効なものになることを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口の設置、第三者委員の氏名と連絡先の掲示に加え、家族の面会時にコミュニケーションを密にとり、直接意見や要望を聞き出すよう努められています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際の挨拶や近隣の商店や農家などの日常的な付き合いに加え、祭りや文化祭などの地域行事への積極的な参加が行われています。運営推進会議などの場で協力を得て、事業所の行事に地域の人に参加してもらえるようになることで、今後さらに交流の輪が広がることを期待します。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「報恩・感謝・奉仕」という理念を掲げ、「生まれてきてよかった」「生きてよかった」と利用者に思ってもらえるよう、国際連合の世界保健機関でも提唱されているスピリチュアル・ケア(魂のケア)が実践されています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、職員で話し合い、より具体的な「基本目的」を作り、理念の実践に取り組まれています。また、年に1～2回、講師を招いての講演会・勉強会が開催されています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌・パンフレット・契約書などさまざまな形で家族や地域に対して理念の浸透に努められています。また、地域行事にも積極的に参加し、交流を通して理念や理念の基にあるスピリチュアル・ケア、事業所の取組みが伝えられています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際の挨拶や近隣の商店や農家などの日常的な付き合いに加え、祭りや文化祭などの地域行事への積極的な参加が行われています。		運営推進会議などの場で協力を得て、事業所の行事に地域の人々が参加してもらえるようになることで、今後さらに交流の輪が広がることを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価に対しては、「できるところから順々に」と着実に改善の取組みが行われています。また、今回の評価に関しても、各ユニットで分担を割り振り、職員が意見を出し合って自己評価が行われました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて事業所の日々の取組みや報告が行われていますが、欠席者が多く開催できないことや、報告が中心となり、意見や要望があまりない場合があるなどの会議運営上の課題があります。		予め参加者に会議で意見をもらいたい議題を伝え、参加の意義を明確にするなどの工夫を行い、会議がより有効なものになることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が介護認定審査委員であり、頻繁に区役所に訪問する機会があることもあり、担当各課との報告・相談が密に行われる関係が築かれています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止には細心の注意が払われており、身体的な虐待のみならず、言葉の虐待に関しても、管理者を中心に職員が相互に注意をし合い、徹底されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態に関しては、家族の面会時に直接伝えられています。また、面会の難しい遠方の家族や体調変化については電話連絡が行われています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置、第三者委員の氏名と連絡先の掲示に加え、家族の面会時にコミュニケーションを密にとり、直接意見や要望を聞き出すよう努められています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全職員が参加するカンファレンスを含めた全体会議に加え、運営者が直接職員の意見や要望を聞く機会が設けられており、寄せられた意見に対して速やかに運営者が判断し、指示が出されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限に抑える努力を行った上で、やむを得ず異動や離職が行われる場合は、利用者にダメージの少ない説明や異動した職員が時折顔を出すなどの配慮がされています。また、面会時や広報誌を通して家族に対する説明も行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	必要なマニュアルの整備がされているとともに、現状に即したマニュアルとなるよう、適宜見直しが行われています		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じた外部研修の参加奨励や月1回の経営会議において管理者に対する教育が行われていますが、計画的な事業所内研修について課題が残ります。		必要な研修を洗い出し、計画を立てた上で、会議などの場を活用して事業所内での勉強会をより充実させることを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの施設長が運営推進会議のメンバーになっていることもあり、情報交換や交換研修、実習依頼の受入れが行われています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「職員が疲れていたら、いい介護ができない」という考えのもと、休憩場所や休憩時間の確保、運営者による月1回の面談などが行われ、職員のストレス軽減に努められています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族による利用開始前の見学や宿泊体験、家族からの情報収集によるこれまでの生活リズムを崩さない配慮により、本人の納得と家族の安心を心がけた利用開始が行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活の智慧や行事などの慣わし、これまでの苦勞などを利用者から話してもらうことや、利用者と職員と一緒に「感謝の気持ち」を言い合う機会が設けられ、年長者に対する敬意や喜怒哀楽を共にする関係づくりが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への受診、なじみの場所への外出や外食を家族にお願いし、利用者と家族の関係性を保ち、共に利用者を支え合う関係づくりに取組まれています。また、家族の存在が利用者の心の支えとして重要なことを家族に理解してもらい、利用者の精神的ケアが家族と協力して行われています。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の利用者・家族からのアセスメントに加え、日常のケアの中で職員が得た情報は「覚書」として特に共有が必要なことを色を変えて記録するなどの工夫が行われています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思いや意向の把握同様、利用開始時の利用者・家族からのアセスメントに加え、日常のケアの中で職員が得た情報は「覚書」として特に共有が必要なことを色を変えて記録するなどの工夫が行われています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族・関係者から情報収集を行い、複数の職員による話し合いを行い、利用者本位の介護計画の作成に努められています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のカンファレンスでの職員の話し合いによるモニタリングを踏まえ、6ヶ月に1度の介護計画の見直し・更新が行われています。また、日々利用者の状態を把握し、状態変化による随時の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望や都合に応じた柔軟な対応に加え、複合施設のメリットを活かし、併設デイサービスとの行事での交流も図られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向により主治医が選択されています。受診前の状態や受診結果などの情報交換は家族を介して行われ、必要に応じてバイタル表の提供や医師へ手紙も書かれており、受診内容は通院記録に残されています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で行えるケアを利用者・家族に正確に伝えた上で、利用者・家族の意思確認と同意が得られています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の適切な取り扱い、尊厳や羞恥心に配慮した言動などへの配慮が行われていますが、書面の整備に課題が残ります。		個人情報の方針や利用目的などを文書として整備し、家族への配布や事業所への掲示などを行い、事業所の取組みを明確にしていくことを期待します。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を行う上での最低限のルールを利用者に理解してもらった上で、寝起き、食事、入浴など、利用者の体調やペースに合わせた柔軟な支援が行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けは利用者も積極的に参加し、職員と共に大家族のような楽しい食事が行われています。また、園内の畑で収穫した旬の食材をメニューに取り入れるなどの工夫もされています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンの把握することで、トイレ誘導による気持ちよい排泄の支援が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や声かけなど、1人ひとりの希望や状況の違いに配慮した入浴支援が行われています。また、利用者同士の入浴や入浴剤による血行促進などの取組みも行われています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事や畑仕事などは、日常生活の一部となり、暗黙のうちに利用者間で役割分担ができており、職員はその状況を見極め、共有を行うことで、張り合いのある生活のサポートが行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「出かけることをいとわない」という姿勢が職員間で共有され、天気の良い日は日常的に散歩や園内の畑への外出が行われています。また、併設デイサービスの車を利用してドライブや買い物を行うことや、天気の悪い日も屋内で体を動かすように体操をするなどの取組みが行われています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し、参加者からの情報をもとに、事業所内で検討を行うなど、身体拘束をしないケアに取り組まれています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について職員間で話し合いを行った上で、リスクを踏まえた対応が取られており、状況に応じて鍵を使用することは家族の了解が取られています。また、徘徊防止装置を導入するなど、可能な限り利用者の自由を損なわない取組みが行われています。		
26-2	69	事故防止のための取組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書・事故報告書が活用され、事例が発生した場合にはカンファレンスにより再発防止策の検討と情報の共有が図られています。また、利用者の身体状況を把握し、個々のリスクを職員間で共有し、事故を未然に防ぐ取組みも行われています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	継続的に救急対応訓練が行われており、本年度も併設のデイサービスと合同で救命救急講習が計画されていますが、全職員の受講に関して課題が残ります。		勤務シフトの都合等により、一斉の受講が難しいと思われるので、全体会議の場などを活用し、参加者からの伝達などを行うことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いによる避難訓練が行われています。また、自治会に働きかけ、近隣住民との災害時の協力関係の構築も進められています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量ともに全て記録されており、職員間で共有が図られています。また、職員に栄養士がおり、メニューを定期的にチェックし、栄養バランスへの配慮が行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりのある設計の共有空間は木がふんだんに使われており、開放感と温かみがある落ち着いた空間になっています。また、テーブルに花を置き、季節感を演出することや、適度な装飾による家庭的な雰囲気も作られています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みの推奨や感謝状や記念写真の掲示などにより、利用者が自分の部屋として落ち着いて過ごせるよう配慮されています。		